



平成29年11月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

テングサ漁場の雑藻刈り試験を漁業者と協働で実施



雑藻刈り試験を行った現場調査船「伊豆丸」
(上段写真)と素潜り漁業者(下段写真)

当場所のある白浜は、かつて日本有数のテングサ産地でした。しかし、近年は漁獲量が減少し、多くの漁場はテングサ以外の雑藻が繁茂して荒廃しています。当場所では、このような漁場から雑藻を除去することでテングサ漁場を回復させる研究を行ってきました。

今年度は白浜地区の素潜り漁業者と協力しながら規模を拡大した雑藻刈り実証試験を行いました。10月3日に当場所職員と素潜り漁業者で1時間ほどかけてオオバモクやカジメなどの雑藻に被われた漁場(面積1,000㎡)から雑藻を除去しました。

その後、回復を助長するために、テングサの移植や母藻投入、テングサを食べる小型巻貝の除去を組み合わせた試験区を設定しました。今後、テングサの回復状況を定期的に調べていきます。

スキューバ潜水によるテングサ採取

伊豆漁協稲取支所では、テングサ漁業にスキューバ潜水の導入を検討しています。地区内のダイビングインストラクターが操業しますが、現在安全な操業方法の確立を目指した試験操業を行なっています。これまでの2回



スキューバ潜水によるテングサの採集

の操業で、操業方法や採取方法等について検討されました。操業方法が確立されれば、より多くの漁獲が期待されます。

漁業士と行政との意見交換会

10月6日に東伊豆町役場会議室にて東部地区漁業士会と県行政との意見交換会が開催されました。漁業士会から高田会長をはじめ25名、県行政から土屋副知事をはじめ7名、来賓として佐藤伊豆漁協組合長、鳶本漁業振興基金常務理事、そして当場所職員4名が出席しました。当場所から「キンメダイの種苗生産研究」について話題提供した後、伊豆の漁業振興について、地域振興にかかる漁業の役割について意見交換を行いました。土屋副知事からは「体験型ツアー等を活用して自ら利益を出す方法を考えることが重要」との意見をいただきました。



意見交換会の様子

11月の予定 ●19日に東京日比谷公園での「Fish-1グランプリ」に伊豆漁協西伊豆統括支所が「いか様丼」を出展します。 ●20日に静岡市で行われるふじのくに「食の都」表彰式で西伊豆産早摘みひじきがしずおか食セレクションとして認定されます。 ●フェリーを利用した西伊豆産水産物の静岡地区への試験流通を実施します。 ●定置網生産技術研修会が伊東市で開かれます。

西伊豆町がクラウドファンディング「西伊豆の漁業を元気にしたい！応援プロジェクト」を実施しています。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu